

TC 205/WG 7

活動領域の変更と バイオフィリックデザインの 規格開発について

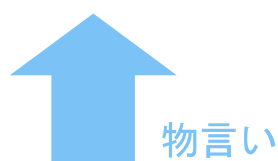
2024年3月4日

古賀 靖子 (九州大学)

旧 WG 7 の動き [1999年～] 2007年～2023年

☀️ TC 205/WG 7 「建築環境設計 - 屋内視環境」

- 2006年 視環境に関するTG1 (フランス, 日本, 韓国)
ISO/NP 16817の投票 → WG7の再始動を目差す
- 2007年 ISO/NP 16817の登録 → 2008年 WG7パリ会議
- 2008年 ISO/WD 16817 → 2010年 ISO/DIS 16817
- 2012年 ISO 16817 「視環境の設計プロセス」発行
- 続く ... 窓・昼光照明関連の規格開発



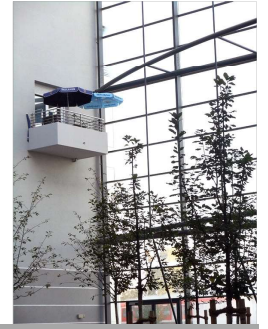
☀️ TC 274 「光と照明」 2012年新設 (照明応用に関する国際規格)

※ 国際照明委員会 (CIE) と協働

新生 WG 7 + 新設 JWG 12 2023年

☀️ WG 7 建築設計における自然と生物多様性の統合

- 活動領域 (Terms of Reference) の変更
対象 → **建物・屋内環境・建物の構成要素**すべての設計
- ISO/PWI 22094
建築設計における自然と生物多様性の統合 - **一般原則**
アメリカ提案 → プロジェクトリーダーは **フランス**



☀️ JWG 12 屋内視環境 ※ ISO/TC 274 「光と照明」との合同WG

- WG 7で開発した規格は 総てJWG 12へ移管
- 視環境設計プロセス・採光用開口の設計・昼光照明設計方法

新生 WG 7 新たな活動領域

☀️ 建築設計における自然と生物多様性の統合

- 人間の**ウェルビーイング**が大事！
- 人間の要求
作業成果・健康・安全とウェルビーイング
屋外環境との関係（例えば：質の高い**眺望**）
社会的・生理的・心理的な要因
- 設計上の考慮事項
居住者と**自然環境との繋がり**



🌱 自然との直接的な繋がりをつくること

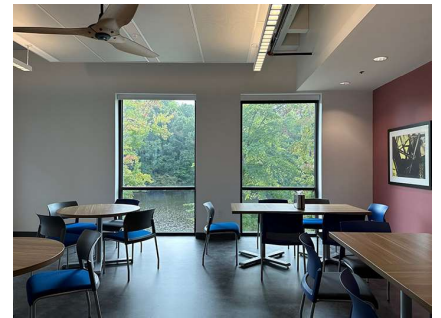
🌱 **バイオフィリックデザイン**



新生 WG 7 ISO/PWI 22094 一般原則

☀ 建築設計における自然と生物多様性の統合

- **自然環境との接続可能性**
- 設計時に考慮されること
立地・建設・改修・設備・保守・運用
- 建築の要素
立地・建物の向き・形態・構成・スタイル・材料・法規と基準



☀ **バイオフィリア** biophilia ← 1984 E.O. Willson (社会生物学者) + S.R. Kellert

- 🌱 生命に対する生得的な親和性
- 🌱 人間には自然や他の生命体との繋がりを求める
生来の傾向があるという仮説



新生 WG 7 ISO/PWI 22094 一般原則

☀ **バイオフィリックデザイン**

- **バイオフィリア** - **生物多様性**に富む地球環境において
進化することにより人間が獲得してきた性質
- **バイオフィリックデザインの6原則**
 - 1) 環境特性 - **植物**との直接的な接触
 - 2) 自然の形と形式 - **複雑性**と**変化**
 - 3) 自然のパターンとプロセス - **感覚的**で変化に富む自然環境
(**視覚**・**聴覚**・**嗅覚**・**触覚**・その他の感覚システム)
 - 4) 光と空間 - **光**と**空間**の多様な関係
 - 5) **場所**に基づく関係 - 生態学・生物地理学的特性
 - 6) 人間と自然の進化した関係 - 隠れ家のような**安全な場所**



新生 WG 7 バイオフィリックデザイン

☀️ 屋内環境 建築設計

➤ LEED v4.1 自然を考慮した設計・質の高い眺望



屋外へのアクセス（中庭・テラスなど）

➤ WELL 自然の要素（植物・水）・照明・空間構成



☀️ 屋外環境

敷地の外は 都市計画・都市建築行政

➤ 植栽・眺望 [← 街区・道路]

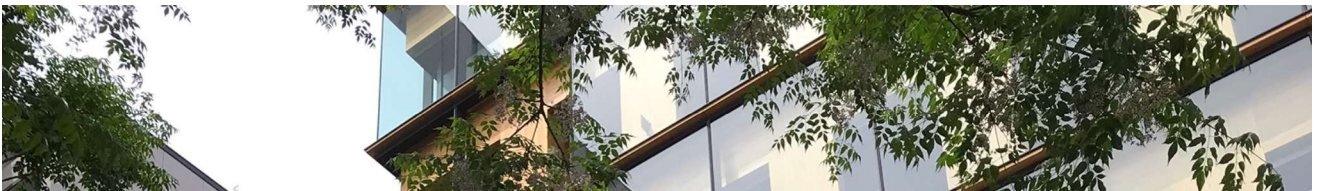


グリーンインフラ

💡 Bill Browning（アメリカ）米国グリーンビルディング協会 設立

“Nature Inside: A biophilic design guide” 他

💡 日本はどうする？ ➡ 教えて！藤井晴行先生（WG 7 新加入）



おわり

WG 7会議

Boulder, Colorado, USA

2024年3月21日～22日